

第3学年 技術・家庭科学習指導案

対 象 3年2組 男18名, 女15名 計33名
指導者 中屋 明子

1 題材名 家族・家庭とこどもの成長 「幼児の生活」(開隆堂 技術・家庭科 家庭分野)

2 題材について

(1) 生徒について

本題材に関わる、既習事項について事前アンケートを行ったところ、次のような結果となった。

あなたの家に幼児はいますか。	いる 9.7% (3名), いない 90.3% (28名)
幼児と接する機会はありますか。	ある 54.8% (17名); 弟妹 9.7% (3名) 親戚の子 41.9% (13名), 近所の子 6.5% (2名) なし 35.5% (11名) *未記入3名
親から自分の誕生や生育について、話を聞いたことがありますか。	ある 77.4% (24名); 身長・体重 (16名), 出産の様子 (9名) 生まれるまでのこと (9名), 病気 (6名), 絵本 (6名), 成長のようす なし 22.6% (7名)
幼い頃に大切にしていたものには、どんなものがありますか。	ぬいぐるみ (14名), 絵本 (8名), 人形 (6名), タオル (5名) 他に 毛布, まくら, レゴブロック, トミカ, カード, おもちゃ, どんぐり, ともだち
幼児期で一番印象に残っているできごとはなんですか。	家族で旅行に行った まいごになった 自転車に乗れた けがをした お泊まり会

(2) 題材について

本題材は、「A 家族・家庭と子どもの成長」の(1)自分の成長と家族、(2)家庭と家族関係、(3)幼児の生活と家族、により構成されている。ここでは、「幼児の生活と家族」について考えさせ、自分の成長と生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気づくことをねらいとしている。

少子化・核家族化がさらに進んでいる昨今、異世代とのかかわりも薄れてきている現状である。中学生の時期にこの学習を学ぶことにより、異世代を具体的に認識し、人間の一生、その時の系列の中に自分を位置づけて見る力、人間が発達しつつある存在であることの発見と発達しつつある自己の発見への芽が育ってくると考えられる。さらに、異世代の人間の現在と未来に責任を持つことを自らの喜びとする能力、自己と人のかかわりを発展させる能力がついていくことが考えられる。育てられているときに育つことを学ぶということを意識させながら、学習を深めていきたいと考える。少子化・核家族化はここ滝沢南中の生徒たちも例外ではない。しかし、3年間の学習の中で、技術・家庭科の授業だけではなく、総合的な学習の時間等での性の学習や保育園での職場体験などにより、人との関わりや命の大切さを積み重ねた学習をしてきているため、A「家族・家庭と子どもの成長」の学習に抵抗感がない。自己の意見を発表しながらも、お互いの意見を尊重するという学習の積み重ねをしてきているので、本題材を通し、考え方をさらに深めていきたい。

(3) 指導について

この題材では、自己の誕生や幼児期の成長、身近な家族、幼児を取り巻く環境へと広がりをもたせている。過去から現在そして未来へと広がることにより、自己理解を深めより良い生活をしていく力を養っていきたいと考える。一人で成長したわけではなく、今日までの成長には家族や地域社会が深くかかわってきていることを理解させ、支えられてきていることを学ばせ、3年間の技術・家庭科の学習のまとめにつなげたい。

本時では、主に幼児期の食生活について理解させ、中学生との相違やそれに伴う配慮事項などを考えさせる。このことから、家族との関わりや食生活自立にもつなげ、より良い食生活のありかたについてまとめ発表させたい。

3 題材の目標

- (1) 関心・意欲・態度
 幼児の発達と生活の特徴に関心をもって学習に取り組み、幼児の生活をよりよくするために実践しようとする。
- (2) 工夫し創造する能力
 幼児の生活に課題を見付け、その解決を目指し、自分なりに工夫し創造する。
- (3) 技能
 幼児の生活に関する基礎的・基本的な技術を身に付ける。
- (4) 知識・理解
 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。

4 指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準
小5 小6	五大栄養素の体内での働きを理解する。米と味噌の特徴を知り、ご飯とみそ汁を作る、 【食べて元気に】 朝食の役割を理解する。 いためてつくる朝食のおかずづくりを行う。 【いためてつくろう 朝食のおかず】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事に関心を持ち、栄養を考えた食事をしようとしている。(関) ・おいしいご飯の炊き方やみそ汁の調理の仕方について考えている。(創) ・ご飯及びみそ汁の調理ができる。(技) ・五大栄養素の種類と働きについて理解している。(知) ・朝食の大切さに気付き、栄養のバランスのよい朝食をつくろうとしている。(関) ・必要な材料や手順を考え、調理計画を自分なりに工夫している。(創) ・いためる調理法で、朝食に合うおかずをつくることができる。(技) ・いためる調理法の特性と材料や目的に応じたいため方について理解している。(知)
中3	1 わたしの成長	・幼児の生活に関心を持ち、幼児の特徴について考え様としている。(関)
	2 幼児の体の発達と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の体の特徴を理解している。(知) ・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。(知)
中3	3 幼児の遊びと発達	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。(創) ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。(知)
	4 幼児の遊びを支える	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に合う「絵本」の作成を通して、幼児に関心をもっている。(関) ・「絵本」の制作を計画的に実践しようとしている。(関)
	5	・「絵本」制作の振り返りを行い、成果と課題についてレポートにまとめている。(創)
	6	・「絵本」作品をお互いに鑑賞し、良さを伝え合うことができる。(技)
	7	・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。(知)
	8	
中3	10 幼児の心の発達と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のこころの発達に応じた関わり方について、考え、工夫している。(創) ・幼児のこころの発達について理解している。(知) ・幼児のこころの発達を支える家族の役割について理解している。(知)
	11 本時 幼児の成長と食	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の食生活に関心を持ち、その特徴を考えようとしている。(関) ・幼児期の生活を理解し、中学生との相違やよりよい食生活のあり方を説明できる。(知)
	12 作ってみよう	・幼児に合った調理ができる。

中 3	幼児の生活と遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活に関心を持ち、幼児の特徴について考えようとしている。(関) ・幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して工夫し創造している。(創) ・幼児の生活に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。(技) ・幼児の生活について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。(知)
-----	----------	--

5 本時の指導

(1) 目標

幼児期と中学生の食生活の相違点を理解し、より良い食生活のあり方を説明できる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	幼児期の食生活に関心を持ち、その特徴を考えようとしている。
知識・理解	幼児期の生活を理解し、中学生との相違やよりよい食生活のあり方を説明できる。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 3分	1 既習の確認 2 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 幼児の生活の特徴を食から探ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習内容の食事にかかわる内容をより具体的に学習することを確認させる。
展開 40分	3 課題の解決 (1) 保育園の「献立表」の特徴をとらえ理由を考える。 (2) 「おやつ」の特徴と食生活の特徴をまとめる。 (3) 「食」に関する絵本から作者の思いを考える。 ・ グループでの交流でまとめる。 (4) グループごとに発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ 例】</p> <p>私たちは、ただ食べているのではなく、家族の様々な思いの中で食べて、心と体を成長させていると思った。自分だけではなく、与える側の大切さを感じた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料を提示し、違いの理由まで考えさせる。 ◎ 食生活の既習事項をふまえながら、理由を書いている。(学習シート) ● 中学生との必要量の違いに注目させる。 ● 絵本作品の中から数冊を提示する。 ◎ 主な内容と作者の思いを書いている。(学習シート) ● 全体で5グループ程度発表させ幼児を取り巻く家族の思いにふれて書かれているか確認させる。

終末	4 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 書き出しを与えて記入させる。 ● よりよい食生活に結びつけられるように記入させる。
	7分	<p>【振り返り 例】 太字は書き出し</p> <p>私たちと幼児期の食生活の相違は、おやつには捕食の意味があるなど、配慮しなければならないことがあると、わかった。</p> <p>生涯にわたって、より良い食生活にするためには、与えられているだけではなく、家族の一員としてできることを増やしていきたいと思った。</p>
	5 次時の確認	

(4) 板書計画

<p>学習課題</p> <p>幼児の生活の特徴を食から探ろう。</p>	
<p>見通し</p> <p>○「保育園の献立表」から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつのありかた。→捕食 ・成長期と必要量（体重1kgあたり） ・季節感 	<p>○「食を扱った絵本」より</p> <p>個人の考え→交流</p>
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べやすさとかみごたえ ・雰囲気作り ・与えられる側と与える側 ・よりよい食生活の工夫を続ける など